

6章 総合問題6

問題

【1】

ポイント

本問の英文は、夏目漱石の『吾輩は猫である』を翻訳したものである。あくまでも日本語を解さない人のための翻訳であるので、一語一句すべて原典と対応しているわけではないが、基本的には、設問部分と原文の対応部分を探し出し、文法的・語用的に最適なものを選べばよい。

解答

- (1) d (2) d (3) a (4) a (5) e
(6) e (7) b (8) b (9) a (10) d

解説

- (1) ○「こう考えた」の部分を、I found myself ～で表している。
○ find + O + C (O が C であるのに気づく) の O の部分に myself がきている。
○ () の直後に that 節がきていることから、that 節を目的語としてとることができる。動詞 reason (～だと推量する) の現在分詞形が入る。
○ I found myself reasoning that …は「気がついてみたら、…と考えていた」の意味。
- (2) ○「三寸に足らぬ」を () three inches long と表現している。
○一寸と inch は別物だが、「～に足らぬ」の部分に着眼すれば、準否定語の scarcely を選ぶことができる。
- (3) ○「^{かめ}甕の縁に爪のかかりようがない」を I still could never hook my () over the rim. と表現している。
○つまり、「爪」を英語で何と言うのかという単語の問題である。
○猫の爪は nail ではなく、claw である。
- (4) ○「甕の縁に爪のかかりようがなければ」を一語で表せばどうなるかという問題。
○(3)で、I still could never hook my claws over the rim. とすでに書いてあるのだから、「したがって」の意味の副詞 Accordingly を選ぶ。
○accordingly には、「それに応じて」の意味の他に、「(前の文を受けて) それゆえ；したがって」の意になる用法があり、本問がそれに当てはまる。
- (5) ○「出ようとする」を my efforts to do () と表現している。
○「出る」が do となるのはおかしいと考え、前に出てくる get out を do () と do を用いて言い換えていることがわかる。
○つまり、get out の繰り返しを避けるため、do so としたのである。
○なお、my efforts と to do so は同格関係にある。したがって、「外に出るという努力」が正しい直訳で、「外に出るための努力」とするのは誤りである。
- (6) ○「もうよそう」を I'd better () . と表現している。

- I'd better = I had better
- したがって、「やめる」の意味の stop を選ばばよい。
- (7) ○ 「かつてにするがいい」を I just don't () what happens next と表現している。
- 「かつてにするがいい」を「私は次に何が起ころうがかまわない」と考えれば、空所に、care を入れることができる。
- care ～ には、「～を気にする」の意味があり、通例、否定文・疑問文で用いる。
- (8) ○ 「～はこれぎり御免こうむるよ」を I've had quite (), thank you, of ～. と表現している。
- have had quite enough of ～ (～はもうたくさんだ) という口語表現を知っているか否かがポイント。
- この表現は、
I've had enough of this. (こんな状態はもうたくさんだ。) (成蹊大)
I've had enough of his nonsense. (あいつのばかげたことには、もううんざりだ。) (青山学院大)
- のように入試で頻出している。
- 本問を間違えた人は、今すぐ熟語を詰め込まなくてはならない。いくら理解が大事といっても知らないものは答えようがない。
- (9) ○ 「…することにした」を The decision () で表現している。
- 「そうした決心がなされた」と考えて、make the decision の受動態の動詞部分の is made が入る。
- (10) ○ 「～に任せて抵抗しない」を I give () and relax. で表している。
- give を用いて、「～に任せる；～に抵抗しない」という意味合いにするには give up とすればよい。
- give up を正しく使うことができる受験生は極めて少ないので、要注意。
- give up は「(今やっていることを) やめる；あきらめる」という意味なので、「ピクニックに行くのをあきらめた」を give up going on a picnic としてはならない。これは、「ピクニックの途上で断念した」の意味。
- 正しくは、
- give up | trying to go on a picnic
 | the idea of going on a picnic
 | a plan to go on a picnic
- としなくてはならない。

【2】

解答

(1) c (2) d (3) b (4) c (5) b (6) a (7) c

解説

- (1) D.H. Lawrence's doctrine is constantly invoked by people, of whom Lawrence himself would passionately have disapproved, in defence of behaviour, which he would have found deplorable or even revolting.

- doctrine 「教義；教え」
- constantly 「絶えず」
- invoke ～ 「～を引き合いに出す」
- passionately 「激しく；激怒して」
- disapprove (of ～) 「(～を) よいと認めない [非難する]」
cf. disapprove (of) a person's conduct (人の行いを是認しない)
- in defence of ～ 「～を弁護して」
- deplorable 「嘆かわしい；遺憾な」
- revolting 「忌まわしい；いやでたまらない」

Ex. It is revolting to our idea of morality.

(それは我々の道徳観念には耐えられないことだ。)

この文の構造は

D.H. Lawrence's doctrine is constantly invoked by people, {of whom Lawrence himself would passionately have disapproved}, in defence of a behaviour, {which he would have found deplorable or even revolting}.

で, whom の先行詞は people, which の先行詞は a behaviour。would have disapproved, would have found はどちらも仮定法過去完了。

{ } でくくった of whom 以下と, which 以下は, 付加的な情報なので, 切り離して後半にまとめるとわかりやすい。この考えで日本語にしたのが, 「全訳」である。(1) の選択肢はこの訳出法をとっていないが, 意味的に同じなのは c である。

- (2) 下線部⑥は「もちろん, こういうことが起こったからといって, 決してその教えを非難することにはならない」という意味。

- That this should have happened is by no means, of course, a condemnation of the doctrine.
- That は名詞節を導く接続詞。
- this should have happened の should have happened は, 仮定法過去完了ではなくて, 「実現したことに対する驚き；遺憾の気持ち」を示す。

cf. It is surprising that she should marry him.

(彼女が彼と結婚するなんて驚きだ。)

It is surprising that she should have married him.

(彼女が彼と結婚したなんて驚きだ。)

- by no means ～ 「決して～ない」

○ a condemnation of the doctrine < condemn the doctrine

○ condemnation 「非難」 < condemn ～ 「～を非難する」

正解は **d**。

- (3) 下線部③は「大いに広まると、自分が人生観を変えた人々が、自分の教えをゆがめ、おとしめ、下劣に模倣するのを見るはめになるからである」という意味。

○ (For) success permits him to see how those he has converted distort and debase and make ignoble parodies of his teaching

文構造は以下の通り。

success permits him to see

how

those

(= that) └─ { (whom) he has converted }

distort

and

debase

and

make ignoble parodies of

} his teaching.

○ how 「～ということ；～という次第」 (= that ; the fact that)

cf. He told me *how* he beat Takeshi at tennis.

(彼は私に、テニスでタケシに勝ったと言った。)

○ convert = change *one's* religious faith or other beliefs

○ distort ～ 「～をゆがめる」 (= give a misleading account of ～)

○ debase ～ 「～をおとしめる」 (= lower the quality, value, or character of ～)

○ make ignoble parodies of ～ 「～に対して下劣な猿真似をする」

○ ignoble 「賤しき；卑賤なる」 (= dishonorable)

○ parody =

① a piece of writing in which an author's style and characteristics are exaggerated and held up to ridicule

② a feeble imitation

以上の構造を正しくつかんでいるのは **b**。

- (4) 下線部④は「なぜならば彼の修道会が大成功を収めようとするちょうど寸前のことだったからである」という意味。

○ because still on the threshold of the great success of his order

「主節と主語が同じで be 動詞が後続する時、従属節内では S + be 動詞が省略可」というルールより、because と still との間の he was が省略されている。

○ be on [at] the threshold of ～ 「～の初めに」

○ threshold = the beginning or the point just before the beginning

○ order 「修道会」

on the threshold of ～ を正確にとっているのは **c** のみ。

- (5) 「influence O to be C (O に影響を与えて C にする)」から O と C の間に SV 関係が成り立つので、正解は **b**。また直後の if で始まる 2 つの文は、この部分の補足説明である。通念から言えば、Writers influence their readers (作者は読者に影響を及ぼす [読者の心を動かす]) ということになるが、ここで終わらず — but always, at bottom, to be more themselves (だがいつも、根本的には、常に読者をますます本来の読者自身にしてしまっているのだ) と言っているのが難しいところ。この本文は Aldous Huxley の D.H. Lawrence (ロレンス論) からの抜粋である。この部分に関して以下のような説明もある。

“Writers do in fact influence their readers, but this influence is basically to strengthen the readers’ own identities, not to make the readers more like the author.”

- (6) ○ alien to ~ 「～と相いれない；～と対立の；～にとって馴染みのない」

ここでは、直前の beliefs と behaviour を修飾している。

a ○ opposed to ~ 「～に対立する」

b ○ inherent (in ~) 「(～に) 生まれつき備わっている」

d ○ relevant to ~ 「～に関係がある」

- (7) 下線部⑧は「ロレンスも、作品によって読者に影響を及ぼした者なら誰でも被る運命を被ったのだ」という意味。

○ Lawrence suffered the fate of every man whose works have exercised an influence upon his fellows

○ suffer ~ 「～を受ける [被る]」

○ exercise an influence upon ~ 「～に影響を及ぼす」

本文全体の趣旨から正解は **c** 「彼の読者は彼の教義をねじ曲げた。」と判断できる。

全訳

D.H. ロレンスの教えは、ある種の行動を弁護するために、人々によって絶えず引き合いに出されているが、ロレンス本人ならこういった連中を激しく非難したことであったろうし、そのような行動を、嘆かわしいと、また、不快だとさえ思ったことであったろう。もちろん、こういうことが起こったからといって、決してその教えを非難することにはならない。同じ人生観であっても、それを認め、それによって生きる人が本質的に立派か下劣かによって、よくも悪くもなるものである。

新しい生き方の唱道者にとって、起こりうる最も憂うつなことは、確かに自分の教えが大いに広まるということであろう。というのも、大いに広まると、自分が人生観を変えた人々が、自分の教えをゆがめ、おとしめ、下劣に模倣するのを見るはめになるからである。もし、アッシジのフランチェスコが、100 歳まで生きていたなら、どれほど苦々しい思いをしたことだろうか。この聖者がまだたいして幻滅することなく、45 歳でこの世を去ったのは、本人にとって幸いなことだった。なぜならば彼の修道会が大成功を取めようとするちょうど寸前のことだったからである。

作者は読者に影響を与える——だがいつも、本当は、読者が結局いっそう自分自身になるだけなのである。もし読者の本性がたまたま、本質的に作者の本性に似ているなら、影響は

作者が望むとおりになるだろう。もし読者が本質的に作者に似ていないのなら、おそらく作者の教義をひん曲げて、作者がよしとする信念や行為にまったく無関係の、信念の合理化や行為の弁明に使うことになる。ロレンスも、作品によって読者に影響を及ぼした者なら誰でも被る運命を被ったのだ。それは避けがたいことであり、物の道理であった。

注

- ℓ. 4 ◇ the same philosophy of life (as Lawrence's) と補う。
 - philosophy of life 「人生の哲学」 → 「人生観」
 - ◇ according as ～ 「～に従って」 (接続詞)
- ℓ. 5 ◇ it = the same philosophy of life (as Lawrence's)
 - ◇ intrinsically 「本質的に；本来」 < intrinsic
 - ◇ base (形容詞) 「卑劣な (= mean ⇔ noble)；品質の低い；にせの」
- ℓ. 6 ◇ preacher 「伝道師；主張〔提唱〕者；牧師」 < preach
 - ◇ depressing (分詞形容詞) 「気の滅入るような」 < depress
 - ◇ can … 「可能性」を表す。
- ℓ. 11 ◇ at bottom 「根本的には；実際には」
- ℓ. 12 ◇ self 「本質；本性；個性；自己；自分自身；私欲」
 - ◇ writer's (self)
- ℓ. 13 ◇ twist A into B 「A をゆがめて B にする」
- ℓ. 14 ◇ rationalization 「合理化」
 - ◇ excuse for ～ 「～の言い訳〔口実〕」
- ℓ. 16 ◇ in the nature of things 「物の道理として；必然的に」

【3】

A.

解答

- (1) My sister said yesterday that she had to finish that report by the [last] night.
- (2) She told me that she couldn't go to the movies with me the next day.
- (3) The man asked her if [whether] that was the right way to the British Museum.
- (4) My mother asked me what I had seen in the park the day before [the previous day].
- (5) The doctor advised [told] him not to drink too much.
- (6) The teacher suggested to the students that they (should) go home before dark.
- (7) She exclaimed how lucky she had been to escape unharmed.
[She exclaimed that she had been very lucky to escape unharmed.]
- (8) He said that he had seen her a week before but that he hadn't seen her since.
- (9) She told me that she had no money then and asked (me) to lend her some.
- (10) Yesterday she told me that she was sorry she hadn't been able to answer my email and asked (me) if I could go to the museum with her today.

B.

解答

- (1) When I was fifteen, my mom said to me, "When do you think you will have a boyfriend?"
- (2) This morning my father said (to us), "Let's go to Karuizawa next Sunday."
- (3) My elder sister said to me, "I want to borrow this book from you today. Have you read it yet?"

【4】

ポイント

日本文には主語が省略されたものが多いが、英文には（命令文を除いて）必ず主語が必要である。また、どのような語句を主語にするかといった発想も日本語とは異なっている。同じ内容を表現するのにも主語の設定の仕方によってさまざまな書き方が可能である。英文を書くには初めに何を主語にするかを決定しなくてはならない。

解答

- (1) ① The event is still fresh in my memory.
② No amount of persuasion could change his mind.
- (2) These circumstances led me to take over my father's business.
別解 These circumstances led to my taking over my father's business.
- (3) ① The typhoon caused heavy damage to our apple orchard.
別解 The typhoon damaged our apple orchard badly.
② We had our apple orchard badly damaged by the typhoon.
- (4) A traffic jam kept me from arriving there in time.
別解 Owing to the traffic jam, I could not get there in time.
- (5) A man is known by the company he keeps.
別解 The company one keeps shows what one is.

解説

- (1) ①日本文通りに「私」を主語として I still remember the event …とすると、「はっきりと」に相当する副詞が見当たらず、うまく文を作ることができない。そこで与えられた動詞には他に is があることに注目し、主語と補語を何にすればよいかを考える。主語にできそうなのは the event と my memory である。my memory を主語にしてみると My memory is still fresh …という書き方が考えられるが、「そのこと」を表す the event をうまく続けることができない。the event を主語にすると、The event is still fresh in my memory. と続けることができる。したがって、余分な語は I と remember である。
②カッコ内で動詞として使えそうなのは、日本語と照らし合わせると change だけである。we を主語にして we could not change his mind とすると、「いくら説得しても」の部分が残りの語から導き出せない。そこで別の主語を設定してみる。his mind は change の目的語として不可欠なので、主語にできるのは persuasion しかない。これに no amount of を付けて主語にし、No amount of persuasion could change ～（ど

んな量の説得も～を変えることができなかった)とすれば日本文の文意を表せる。主語に no が含まれるので、動詞を could *not* change としないように注意すること。したがって、余分な語は not と we である。

- (2) These circumstances (これらの事情) という書き出しが与えられているので、これを主語にして「これらの事情が私に父の事業を引き継がせた」という文にすればよい。「～(=人)に…させる」は lead ~ to …; bring ~ to …といった表現が適切。あるいは、**別解**のように、lead to ~ (～につながる; ~を引き起こす) を用いて表してもよい。「引き継ぐ」は take over がよい。「事業」は business が適当。

- (3) ① The typhoon が主語なので、「台風が我々のリンゴ園にひどい被害を与えた」という文にする。これは damage (被害(を与える)) で表せばよいが、この語を動詞、名詞のどちらで用いるかによって文の組み立て方が変わってくる。

動詞として用いる→ The typhoon *damaged* ~ seriously

名詞として用いる→ The typhoon | caused serious *damage* to ~
| did ~ serious *damage*

damage を動詞として用いた場合には「ひどい」を副詞 badly; seriously; extensively などで表すが、名詞の場合は「ひどい」を形容詞 heavy; great; extensive などで表して damage の前に置くことになる。「リンゴ園」は apple orchard。

② We を主語にするとすると、受動態にすることを思いつくかもしれないが、‘被害を受けた’のは「我々」ではなくて「リンゴ園」であるから、we を主語にした受動態の文にはできない。‘被害’を表す have + O + 過去分詞 (O を…される) の形を用いるとよい。ここでは damage を動詞として用いて we had our apple orchard damaged by ~ とする。他に同じ内容を our apple orchard を主語として Our apple orchard was badly damaged by the typhoon. という受動態の文で表すこともできる。

- (4) 文の組み立て方には大きく2通り考えられる。

1) 主語を「交通渋滞」にする (= 無生物主語)

→「交通渋滞が、私(たち)が時間内にそこに着くことを妨げた。」と読み換える。
keep [prevent] O from …ing (O が…するのを妨げる), あるいは make it impossible for O to … (O が…するのを不可能にする) で表す。

2) 主語を「私(たち)」にする (= ‘人’が主語)

→「私(たち)は交通渋滞のために時間内にそこに着けなかった。」と読み換える。

○「～のために」owing to ~; because of ~

○「交通渋滞」traffic jam; traffic congestion

○「時間内に」in time

- (5) 文の組み立て方はいくつか考えられる。

1) 主語を「ある人物(の人柄)」にする

→「人(の人柄)は付き合っている仲間によって知られる」という受動態にする。ここでは「人柄」はあえて訳出しなくても A man is known …とすれば「その人がどういう人間であるか」という意味が十分に出る。

2) 主語を「人の付き合っている仲間」にする

→「人の付き合っている仲間がその人の人柄を示す」とする。「示す」は show が簡単でよい。この場合の「ある人物の人柄」はただ a man としたのでは意味が曖昧なので、what (kind of person) he is のようにする。

「付き合っている仲間」は the company one keeps がよく使われる表現。company は「(ある人の) 仲間；友達」を集散的に表す不可算名詞。A man is known by the company he keeps. はことわざとしても使われる。決まった言い方なのでこのまま覚えておきたい。他の訳し方としては、We can tell what kind of person he is by seeing his friends. のように We を主語にして書くこともできる。

【5】

解答

- (1) die (2) desert (3) ground (4) fine (5) well
(6) fold (7) mean (8) minute (9) novel (10) order
(11) tap (12) dead

解説

- (1) (a) die 「サイコロ」(複数形が dice)
「さあ、賽は投げられた。もう計画を変更することはできない。」
(b) die hard 「なかなか消えない」
「私の父はどんなに頑張ってもタバコをやめられない。昔の癖は取れないものだ。」
- (2) (a) desert ～「～を見捨てる」
「何が起ころうと、決して君を捨てたりしない。そばにいるよ。」
(b) desert 「砂漠」
「たいていの人には単純に、砂漠では水がまったく見つからないと思っているが、それは本当ではない。」
- (3) (a) ground 「根拠」
「銀行は、私の筆跡が違うという根拠で支払を拒んだ。」
(b) ground = grind ～(～を挽く)の過去分詞形
「米国のスーパーで売っている挽肉の70%にピンクスライムが入っているって信じるか。」
※ピンクスライム：通常食肉として使用されない部位の牛挽肉に水酸化アンモニウムなどを加えることで、サルモネラ菌などの病原菌を撃退するほか、味をよくするため調整したもの。大手ファーストフード店が使用していたことを認め米国では騒ぎとなった。
- (4) (a) fine 「罰金」
「先月私は信号無視でひどい罰金を課せられた。」
(b) fine 「素晴らしい」
「ツイッターは素晴らしいが、フェイスブックにはどうもイライラさせる何かがあると思う。」
- (5) (a) well 「井戸」
「私の家の裏には古い井戸があった。それはかなり前に作られたものだ。」

- (b) well 「十分に」
「実際、女学校は近代初期よりかなり前に存在していた。」
- (6) (a) (hundred-) fold 「(100) 倍」接尾辞として fold を付けて「…倍の」の意になる。
「HIV / AIDS にかかった女性の数は 100 倍増加した。」
(b) fold ～ 「～を折りたたむ」
「初めに、三角形になるようにその折り紙を折って下さい。」
- (7) (a) mean ～ 「～を意味する」
「あなたたち、ジョンについて話しているの？ 彼はもう私にとってどうでもいい人よ。」
(b) mean 「意地の悪い；卑しい」
「あなたたち、ジョンについて話しているの？ そんな意地悪しないで。2 カ月前に別れたことを知っているでしょ。」
- (8) (a) minute 「詳細な；微細な」[maɪn(j)ú:t] (発音注意)
「名医とは患者のいかなる微細な変化も見つけ出すことができる。」
(b) minute 「分」
「分針は 1 時間で 1 周するが、時針は 12 時間で 1 周する。」
- (9) (a) novel 「目新しい」
「教授はいつも、私たちは地球温暖化に斬新なアプローチを取るべきだと言っている。」
(b) novel 「小説」
「ベストセラーのそのミステリー小説は最近映画化された。」
- (10) (a) order ～ 「～を注文する」
「科学技術のおかげで、今やオンラインで何でも注文できる。」
(b) order 「順番」
「ハワイの 8 つの大きな島を北から南へ順番で言うとか。」
ちなみに答えは、Kaua'i, Ni'ihau, O'ahu, Moloka'i, Maui, Lana'i, Kaho'olawe, Hawai'i となる。
- (11) (a) tap into ～ 「～を利用する」
「私たちは途方に暮れたが、とにかく何とかウェブを利用して最新のデータを見つけることができた。」
(b) tap water 「水道水」
「ペットボトルの水は水道水と比べてちっとも健康的ではないとよく言われる。」
- (12) (a) dead 「完全に」
「彼の事業は倒産し、彼は完全に一文無しになった。」
(b) dead 「完全な」
「機体が完全に停止するまで座席から離れないで下さい。」

【6】

A.

解答・解説

※カッコ内は削除すべき語の前後の語。

- (a) (and) they (recited)

Poems were written and recited と過去分詞が並んだ形である。

- (b) (tea) was (drinking)

tea drinking とつなげることで、The Chinese style (S) spread (V) となる。

- (c) (894,) in (the)

was extinguished とあるから「消された」のは何かを考える。すると the light が主語となるべきとわかる。

全訳

彼らがお茶を飲んでいる間、和歌が書かれ詠まれていた。というのはこの時代は貴族、僧、文人の間で中国文化を模倣する時代だったからだ。お茶を飲む中国流の習慣はこのように、平安時代の始まりまでに広まった。しかし、遣唐使の派遣が894年に中止になると中国について学ぼうという光は徐々に消されていった。

B.

解答・解説

- (a) whose

whose と which のどちらかが不要であることはわかる。inferiority feelings と考える。

- (b) them

them = others などと考えても意味が通らない。

- (c) as

この if 節は後の whether 節と同様に wonder の目的語となる名詞節であると考え。

全訳

自意識はまったく無意識の可能性のある劣等感から引き起こされる。何らかの方法で、私たちは他の人とは「違う」と感じる。この孤立感により、人々を避けることで可能性のある批判から逃れたいと思う。私たちは人と一緒にいて、くつろげることはない。なぜなら、人に興味を持つ代わりに、自分の外見や、自分はきちんと振る舞えているか、相手の注意を引きつけておけるか、自分のことが好きだろうか、などということに気をもんでいるからだ。



会員番号

氏 名